

「永平寺道」「芦原新道」...

水谷忠厚 功績一冊に

明治時代に県内の道路整備に貢献した水谷忠厚（1841〜1892年）を紹介する書籍「天爵大神福井をゆく―元尾張藩士水谷忠厚の道路開鑿―」を勝山市の勝山城博物館が発行した。水谷は天職としてボランティアで生活道路の敷設、改修に尽力した人物。現在も残る道路の礎を築いた「開拓者」の功績をまとめている。（藤田尚久）

水谷忠厚（大本山永平寺提供）



嶺北18区間 林学芸員（勝山城博物館）まとめ

著者は同博物館の林淳学芸員（35）。関西の博物館などに勤務し2013年、勝山城博物館に採用されたのを機に、以前から興味があった水谷について本格的に調べ始め、一年半かけてまとめた。水谷は尾張藩士・水谷家の子として生まれた。明治維新後、愛知県など

で道路整備に従事。87明治20年から約2年、福井県内で活動した。「変わり者だった」（林学芸員）という水谷は、自ら「天爵生まれつき備えている高い徳」大臣と名乗った。その後、功績が認められ愛知県知事から「天爵大神」と呼ばれるようになったと林学芸員

金を募った。不足分は個人的に借金して工面。自ら工事を指揮し、作業にも加わったという。

福井県にきた経緯は、宗教者と関係があった水谷が参拝者用の道を整備しようとしていた曹洞宗大本山永平寺（永平寺町）に協力するためだと推測される。水谷は福井市から同寺に通じる約10キロの「永平寺道」を改修。難所である同町の越坂峠には、

明治時代に県内の道路整備に尽力した水谷忠厚の功績を書籍にまとめた林学芸員―勝山市の勝山城博物館



修や維持をしていたが、水谷は慈善事業で地域の道路を改修、敷設した。林学芸員は「水谷は人々のために道を切り開いた。当時の人はありがたく思ったことだろう。明治時代の福井の道路整備を進めた立役者の一人だ」と話している。

書籍はB5判、95ページ。同博物館で千円（税別）で販売している。問い合わせは同博物館 ☎0779（88）6200。

にぎわう夏、期待込め



坂井・三国

車の最高速度を時速30キロに規制して歩行者らの安全を確保する区域「ゾーン30」の運用が1日、大野市陽明中周辺の道路で始まった。市内では初めて。

規制区域は同校と誓念寺中野保育園、市北部児童センターを含む約16万

